

武雄市教育委員会 様

平成 25 年 10 月 29 日

武雄市図書館・歴史資料館を学習する市民の会（以下「会」）

公開質問状の回答への意見書（1）

平成 25 年 10 月 15 日、武雄市教育委員長・教育長宛に提出した公開質問状に対し、平成 25 年 10 月 21 日、両長からご回答をいただきました。迅速なご回答いただいたことについて、心から感謝いたします。その内容について、会の質問が不十分でご理解いただけなかった部分もあるのではないかと、という反省からあらためて意見書にまとめ提出させていただきます。この意見書については、防災に関する事でもあり、早急に提出させていただきましたが、他の回答についても逐次意見書を提出させていただきます。

この意見書を、今後の図書館・歴史資料館の運営に、反映させていただくことを切望します。

（ なお、この意見書は会のホームページで公開しています。

<http://takeolib.sblo.jp/> ）

1、公共建築として利用者安全等の問題について

「避難については職員の誘導による」という人的という職員によ

るソフト的な対応をとられるとの回答ですが、私たちは建物・ハードについて懸念しています。非常災害時に人的対応のみに頼るのは非常に危険であり、利用者の安全が守られるかどうか不安を覚えます。

3：11以降あらゆる災害に対して「想定内に置く」ことが、行政のスタンダードになりました。さらに、公助・共助・自助について、行政側から市民に自立が求められています。これは、自然災害などの場合、公助が現場に届くのは3日の時間が必要だからです。その間は、自助を主に共助で切り抜けるしかありません。このようにあらゆる災害について、自ら身を守ることができるようにすることが時代の要請であると思っています。私たちは、出来る限り公共に負担をかけないように、自助の方向で考えたいと思っています。

2階の閲覧バルコニーについて「会」は、当初からその危険を指摘してきました。そのことについて「会」の認識は以下の通りです。最悪の状態として、地震による火災発生時を想定してみたいと思います。火元はスタバ付近と仮定します。発生した煙は建物の内部空間の形状から、2階バルコニー付近に充満します。（煙だまりになる可能性が強い）その状況で、2階の閲覧者は以下の危険にさらされると思います。先ずエレベーターが止まり、一か所の階段に両方向から避難者が集中します。（一部学習室バルコニーから屋外階段利用は可）さらに、東側閲覧バルコニーは避難最大距離30mを超えています。高い書架から書籍が落ちて避

難路の障害になり、また直接傷害を与えることも想定しなければなりません。1階に書籍は落下しないといいますが、それを止める手摺りは1, 1mで法的に最低減の高さしかありません。地震の繰り返しエネルギーが加わった時に、飛び出しガードはあったにしても最悪の状況を考えるべきだと思います。さらに、1階にたどり着いたにしても、そこからは狭い迷路状況のルートをとどることになります。その時1階は既に、スタバからの火が廻っているかもしれません。そのような状況の中で、女性である司書さんたちが誘導して安全に避難させることが可能でしょうか。

利用者には、子どもたちも、赤ちゃんを連れた方、お年寄りの方もいます。あくまでも、分かりやすい避難ルートを設定し、自助で避難できる施設整備をお願いします。

これだけ入館者の多い施設であり、建築防災専門家の全館防災診断と、30mの限界領域の処理については、土木事務所建築主事の性能検査を受け、その判断により必要であれば「仕切り」を設けるなど、全体的に利用者安全が保たれる施設に改修をお願いします。